

## 2010年 社長(西尾 進路)年頭挨拶について

記者各位

新年明けましておめでとうございます。1月5日(火)に行われた、当社社長、西尾 進路のグループ社員に対する年頭挨拶の要旨を、下記の通りお知らせいたします。

<要旨>

### 1. 石油業界を取り巻く事業環境

足元の経済情勢は、先進国の景気底入れや新興国の成長などから国内外で回復途上にあるものの、金融システムの不安や国内のデフレ・雇用不安・円高・新型インフルエンザなど、まだ楽観視できる状況にはない。

石油業界に目を向けても、内需の急激な減退や輸出採算・石化市況の悪化を背景に、引き続き極めて厳しい状況にある。加えて、温室効果ガス「1990年対比25%削減」目標の表明や、「環境税の導入」が議論の俎上に上がるなど、業界を取り巻く政策の行方も極めて不透明かつ不安定である。

### 2. 2010年の重点課題

「新日本石油」としての最終年度であると同時に、JXグループが誕生する記念すべき年である。まずは「徹底したコスト削減」「トラブル削減」「効率的な生産計画」「新価格体系下での計画販売」などの従来施策に、新日本石油120年の歴史の総決算のつもりで全力を尽くす。

4月には「JXグループ」が発足する。経営統合の目的は、エネルギー・資源・素材の安定的かつ効率的な供給という使命を果たし、かつ業界で圧倒的な優位性を確保し、生き残ることである。経営統合により初めて可能となる劇的な事業変革を実現するため、まずその端緒として、来年3月までに40万BDの精製能力削減を実行し、さらに遅くとも2015年3月末までに20万BDの追加削減を行う。石油精製販売事業で用いるブランドは「ENEOS」に統一し、また新エネルギー事業やグローバルな事業展開も推進していく。

現在進めている「統合中期経営計画」(4月公表予定)策定も、既存の枠組み・やり方に拘らず、「ベスト・プラクティス実践」の精神を忘れずに進め、第一次統合中計最終年度には600億円以上のシナジー効果を得られるべく、両社で知恵を絞って積み上げていく。なお、4月には併せて「長期ビジョン」も発表する予定である。

また、業界のリーディングカンパニーとして、CSR先進企業として、「環境対応」も重要なテーマである。当社グループの「持続可能な社会への貢献」「地球環境問題への積極的な取り組み」が、世間でも高く評価されていることは大いに誇るべきことであり、今後も継続していきたい。

### 3. グループ社員への期待

2010年は、さらに厳しさを増すであろう事業環境の変化を先取りするため、「JXグループ」として一致団結してシナジーの実現に向かって邁進していく。この経営統合を「劇的な構造改革のチャンス」と前向きに受け止め、ベスト・プラクティス実現に向けて努力すると共に、統合効果の早期実現のためにも、従業員の皆さんの叡智と勇気を結集することが必要不可欠である。

また、シナジー効果の実現、そのための抜本的な構造改革の推進は、特約店・需要家・関係会社・協力会社など皆さんのご理解を頂かなければ実現不可能であり、誠心誠意の話し合いをしてもらいたい。

これまで「変革へのチャレンジ」として打ち出してきた数々の施策が、今後の飛躍に向けての土台になってきていることを実感している。「JXグループ」の誕生にあたり、劇的な事業変革を実現し、『総合エネルギー・資源・素材グループ』として、この厳しい事業環境を乗り越え、2020年、2030年へと更に発展していきたい。

来年の年頭には、統合新会社で統合効果の一端を実感しつつ、明るい話題で笑顔を交わせることを願っている。

以上